

特定健康診査・保健指導を進めるに当たっての課題

1 基本的な考え方の検証

今後とも保険者の本来の事業として前向きに取り組む必要があり、実施の意義、数値目標、年次計画などを見直し、あらためて今後の進め方を明確に示す必要がある

- 将来展望
 - 理念、意義、方向性、数値目標、年次計画、評価(アウトカム)
- 年齢構成、労安法対象者など保険者の実態に沿った目標の設定
- 成人病予防健診、生活習慣病健診、人間ドックとの棲み分け・連携
- メタボリックシンドロームに着目する意義(医学的な視点からの論拠)
- 医療費縮減効果の考察
- 健診データの保健指導への活用(電算用システムツールの開発)

2 具体的な検討事項

(1) 特定健診・保健指導の将来展望(中長期的な取り組み)

- 厚生労働省は方向転換(廃止)するのではとの疑念を抱いている実務担当者への意識の醸成

(2) 成人病予防健診、生活習慣病健診、人間ドックなどこれまでの取り組みの変遷と、特定健診・保健指導の実態に沿った棲み分けの明確化

- 従来の成人病予防健診、生活習慣病健診、人間ドック
 - ・ 疾病の早期発見、早期治療、要精密検査、要治療者への受診勧告
- メタボリックシンドロームは生活習慣病該当者・予備軍への意識付け及び該当者への指導の在り方(一部専門家の不要論等への対応)
- 保健指導対象者の選定、階層化の見直し(治療中の者は対象にする)
- 特定健診は従来よりレベルが下がったとの意見への説得

(3) 実施目標数値の見直し

- 特定健診実施率が低く積極的支援対象者が低いと必然的に保健指導実施率が高くなるため評価方法の見直しが必要

(4) 内臓脂肪症候群に着目した事業の目的、効果の精査

- 従来の成人病予防健診との違い
- 内臓脂肪から分泌される物質の身体への影響(悪玉物質 善玉物質)
- 運動の効果(エクササイズの目標の周知)

(5) 医療費縮減効果の考察

- 短期的には医療費が上がるとの意見への対応
- 医療費縮減効果の実証及び推計値の明示
- 服薬している高血圧、脂質異常者への運動による病状改善の支援
- 長期服薬者に対する後発医薬品の使用促進との連動した取り組み